

ヒカゲ舟～ブドウ岩ノ頭

【山 域】 道志山塊

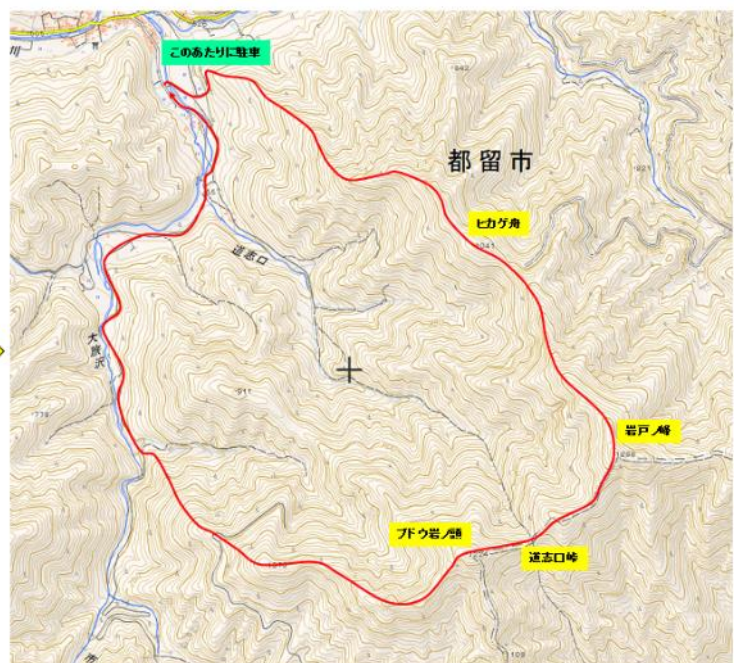
【ル ー ト】 ヒカゲ舟～ブドウ岩ノ頭の周回

【登山方法】 ヤブ山バリエーション

【行 動 日】 2018年2月21日(水)

【参 加 者】 CL 柘植、吉川(記)

【行動】 2/21 土気 4:45-(中央道経由)大月 IC-やすらぎ園キャンプ場付近駐車-ヒカゲ舟北西尾根取り付き 8:00-ヒカゲ舟山頂 9:27-岩戸ノ峰 10:38-ブドウ岩ノ頭 11:22-1073 ピーク経由の北西尾根-尾根切断場所 12:25-尾根復帰 12:55-林道 13:50-駐車地点 14:10-大月 IC-(中央道経由) 帰葉



【内容】

シーズンになったら、賑わうであろうか？と思われるキャンプ場付近に駐車して、原開戸橋を渡り、畑を通り抜け、目の前の藪尾根の末端に取り付いた。灌木帯の尾根は、明るいものの背丈ほどの藪に茨が交じり苦労する。標高差 300m 位登ると茨の藪も薄くなり、大旅川の谷筋にリニヤ実験線が見えてきた。時々雪を踏むようになると、間もなく明るい雑木林にうっかりしたら見落としそうなヒカゲ舟と書かれた小さな板を見つけ、ピークであることがわかる。標高約 500m をこなし、小休止！冬枯れのこの時期は、日向舟です。通り過ぎてしまいそうなヒカゲ舟ピークから、踏み跡を辿り菅野盛里林道に降り立つ。寸断された尾根の法面は、コンクリが吹き付けられ、登り口探しに少々手間取った。振り返ればすぐわかる場所だった。法面が階段状になっていて、その先は崩れかけた斜面から稜線に復帰する。稜線に立ち、今倉山～二十六夜山方面の山波の手前に今回下る尾根が見えた。また反対側には、三つ峠から大菩薩嶺やリニア実験線を望むことができる。この景色に見覚えがあると思い、帰宅後、昭文社の地図を広げてみたら、5 年前に鳥沢駅から御正体山へと道志山塊を横断した時、日向舟のピークや、これから向かう岩戸ノ峰やブドウ岩ノ頭の主稜線は踏んでいた。この時、雛鶴峠から日向舟ピーク辺りは、単調で異常な眠気をこらえて歩いた事を懐かしく思い出した。今回、雛鶴トンネル上の稜線もしっかり見てい

る。前の山行と今回の山行が繋がった。



ヒカゲ舟に続く尾根の下部の様子



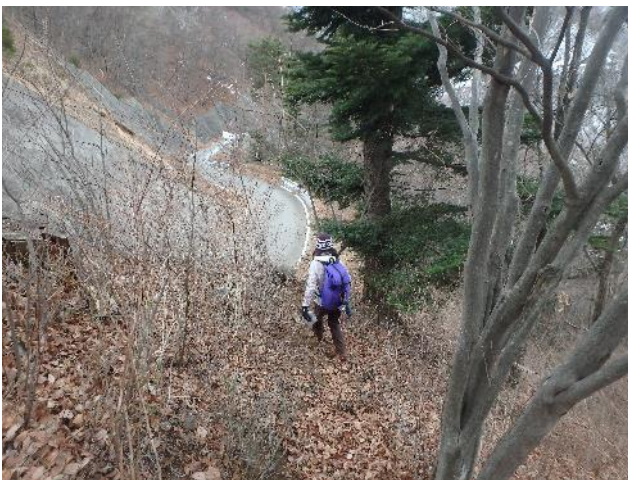
大菩薩方面の遠望



前道志の山と遠く奥多摩の山並み



名前とおり地味なヒカゲ舟の山頂



ヒカゲ舟ピークから林道に降り立つ



岩戸ノ峰のピーク

標高を上げるごとに、積雪も増えて歩きづらくなり、西側の雪のない所を拾ったりして、岩戸ノ峰の急登を詰める。ここから、ブドウ岩ノ頭までは裏道志の主稜線となり、しっかりした踏み跡を辿る。途中、道志口峠から車を駐車した近くの道志口に国土地理院の地図には波線があるものの、踏み跡は見られなかった。ブドウ岩ノ頭から、南西尾根の西隣 1073mピークの尾根を下る。痩せ尾根にツガ、アカマツの根や岩場交じりとなり、暫く変化を楽しんだ。シカ柵を通過し、1073mのピークを過ぎると、急下降の

尾根となりアカマツが多く見られ、切り倒されたままの雑木が散在し、格闘の連続から解放されると、林道に切断された尾根上にたった。西側法面のコンクリ吹付の縁（足場の悪い急斜面）をたどり、懸垂下降で林道に下りた。今日のハイライト！



道志口峠（峠道は廃道らしい）



ブドウ岩の頭



ブドウ岩ノ頭から西尾根をたどる



尾根を遮断する林道が見えてくる



擁壁を懸垂下降で降りる



大変な思いをして降りた林道の擁壁

元の尾根に戻り、暗い杉の植林帯から、大旅沢に降りたった。林道を 20 分ほど歩き駐車地点に到着す

る。

富士山は望めなかったが、ウイークデーの高速道を快適に走り 18 時頃には帰宅した。久々の冬枯れの道志の山を楽しみ、又、忘れていた山行を思い出しながらの山行報告を書き、楽しみは倍増しました。

記録 : 吉川 りつ子